

世界史B 32 イスラム世界の展開

1, アッバース朝の衰退

- ・北アフリカ西部=()1でアルジェリア(777)、モロッコ(789)、チュニジア(800)が自立。
- ・東方でイラン東北部=ホラーサーンが自立⇒()3朝(867~1003)=創立者サッフアール=銅細工師
- ・9世紀後半からマムルークがカリフを廃立するほどの強い力を持つ。有力者→大アミール
- ・10世紀前半、エジプトも自立→アッバース朝の支配はイラク地域のみとなる。

2, イラン、トルコ=西アジアのイスラム化

- ・()4朝(875~999年) 東部イランのイラン人=サーマーン家=によるイスラム政権。
 - ┌中央アジア=トルキスタン=まで支配⇒中央アジアのイスラム化
 - └首都()5、サマルカンド→学問芸術の中心⇒イラン文化がイスラムと結合・再興
 - └900年サッフアール朝を破りホラーサーンの大半を併合。 ⇒イラン=イスラム文化
 - └軍人や奴隷となったトルコ人、ウイグル人にもイスラム教が普及。
- ・()6朝(932~1055年) 西北イランでシーア派=ブワイフ家=が建国。十二イマーム派。首都シーラーズ
 - ・946年バグダードに入城。アッバース朝の大()7となる⇒イラク、イランを支配
 - ・トルコ系マムルークを用い、俸給を徴税権を持つ()8制に変更→後の諸国に継承
- ・()9朝(940ころ~1132年) トルコ系(ウイグル)初のイスラム国家 君主号「カガン」 首都カシュガル
 - ・中央アジアのトルコ化⇒『トルキスタン』・イスラム化進展⇒トルコ=イスラム文化
 - ・999年西のサーマーン朝を破る 東方の東トルキスタン・タリム盆地に進出。
- ・()10朝(962~1186年) マムルークの()11人がアフガニスタンに建国 首都ガズナ
 - ・10数回の()12遠征。ガンジス川流域までを支配。
 - ()13地方などインド北西部をイスラム化する。
 - シュードラ・アチュートの多くが改宗→北インドでのイスラム教の普及
- ・()14朝(1038~1157年) トルコ人のセルジューク族(スンナ派)、ホラーサーンで建国。
 - ┌1055年族長トゥグリル・ベク(位1038~63)、[]15に入城。首都はコンヤ、イスファハーンなど
 - アッバース朝のカリフに()16=王の称号と政治支配権を認めさせる。
 - └シリア、パレスチナを占領。ビザンツ帝国から[]17=小アジアを奪う(1071)。
 - ルーム・セルジューク朝(1077~1308年)⇒ヨーロッパ諸国の「十字軍」(1096~)の一因となる。
 - └軍隊をマムルークに切り替え、イクター制を整備。公用(行政用)語は[]18語。
 - └11世紀末マリク=シャー(位1072~92)の時代→黄金期。灌漑、道路の建設。遊牧民の定住・農耕化。商工業を奨励。貧民救済。学問、芸術を保護。図書館、病院を建設。
 - 1067年バグダード(はじめ各都市)にニザーミーヤ学院❖a=()19を設置。
 - 1074年バグダードに[]20を建設。ウマル・ハイヤームに新暦を作らせる。
 - ❖a---イラン人宰相ニザーム・アルムルク(1017~92)による。シーア派に対抗してイスラム神学・法学を整備。
- ・()21朝(1077~1231年) 首都クフナ・ウルゲンチ
 - ・アム川下流域=ホラズム=にスンナ派のトルコ系マムルークが建国。セルジューク滅亡後イランに進出。

3, モンゴルのイスラム政権

- ・チンギス=ハン以来のモンゴル軍---1219年、中央アジアのトルコ人王朝ホラズム朝を侵攻、さらに西進して1258年()22朝を滅ぼす。
- ・イル=汗国(1258~1353年) ()23=1218~65=チンギスの孫が建国。首都タブリース。
 - ┌初期 →イスラム教徒抑圧。ローマ教皇や西ヨーロッパ諸国との友好関係を指向。
 - └13世紀末→7代()24=ハン(1295~1304)の時イスラム教を国教化。モンゴル人が改宗。
 - └イラン人()25を宰相とする。→イラン・イスラム文化の成熟

4, 北アフリカのイスラム化

- ・()26朝(789~926年) 首都フェス
 - ・北アフリカ西端モロッコ。アリーの子孫イドリース1世(?~793)による初のシーア派政権。

- ・()27朝(909~1171年) マグリブでシーア派のファーティマ=ムハンマドの娘に由来=家がベルベル人の支持で建国。
 - ┌首都チュニス。アッバース朝に対し自らカリフを名乗る。
 - └チュニジア、()28島を支配。エジプトを征服。シリアも支配。
 - └973年新都市()29に遷都。アル・()❖b30モスク・学院(マドラサ)設置
 - └地中海、インド洋、()31を結ぶ交易圏により繁栄。
 - ❖b---『最も栄えある』の意。988年創立の世界最古の大学。プラトンなどギリシャ哲学の研究。
 - ・()32朝(1169~1250年) 首都カイロ
 - ┌ファーティマ朝宰相のクルド系()33=1137~93❖cが建国。
 - └第1回十字軍(1096~99)に奪われた[]34を1187年ハッティンの戦いで奪回
 - 十字軍捕虜を()35⇒1192年休戦協定。イスラム慣行の宗教共存秩序を回復。
 - └軍主力はマムルーク。イクター=土地徴税権を与える。第6回十字軍(1248~54)に対抗。
 - ❖c---本名ユスフ。アイユーブは父の名(ヨブ)から。サラーフ=アッディーンは「信仰の救い」との尊称。西欧では「サラディーン」
 - ・()36朝(1250~1517年) トルコ系奴隷出身の軍人=マムルークによる政権❖d 首都カイロ
 - ┌エジプト、シリアを支配。メッカを保護下に置きアッバース家のカリフを[]37に移す。
 - └カイロはイスラム・国際交易の中心として繁栄→カーリミー=回船・船主=商人の活動
 - └最後の十字軍(1270)と戦い駆逐。1260年シリアに侵入した[]38軍を破る=アイン・ジャールートの戦い
 - ❖d---アイユーブ朝最後のスルタンの奴隷出身の妻シャジャール・アッ=ドゥッル(?~1257)が1250年スルターナとして即位して成立。
- [北アフリカ西部・西サハラ=マグリブのイスラム王朝] →北アフリカにイスラム教、()39語が普及
- ・ムラービト朝(1056~1147)とムワッヒド朝(1130~1269) 首都()40=「神の国」ベルベル語
 - ┌ベルベル人のイスラム神秘主義=()41❖eによる建国。
 - └サハラ以南・ニジェール川流域(ガーナ王国)のイスラム化→サハラ超えの隊商路=大量の金の流入
 - └後ウマイヤ朝滅亡後の[]42半島へ進出。アル=アンダルスとイスラム教徒防衛。
 - ❖e---アッラーとの合一をめざし修行に励む人々。「サファー(清浄)」「ソファー」「ソフィア」から。



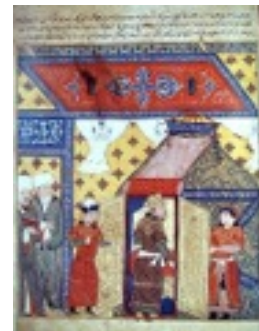
セルジューク朝



マドラサ(サマルカンド)



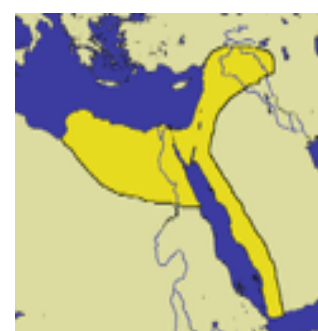
プハラの王廟



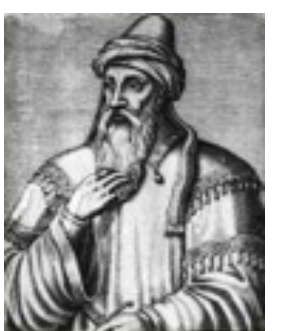
カザン=ハン



アル・アズハル学院(カイロ)



アイユーブ朝



サラーフ=アッディーン

- ・紅海 ・解放 ・フラグ ・カイロ ・インド ・トルコ ・プハラ ・ガズナ ・カザン ・スルタン ・イクター
- ・アミール ・マドラサ ・ブワイフ ・ホラズム ・マグリブ ・アラビア ・アズハル ・シチリア ・スーフィー
- ・サーマーン ・アッバース ・マラケシュ ・パンジャブ ・マムルーク ・カラ=ハン ・アイユーブ ・イドリース
- ・サッフアール ・セルジューク ・ファーティマ ・サラーフ=アッディーン ・ラシードウッディーン